

清瀬市郷土博物館協議会 令和6年度第1回議事録

日 時 令和6年12月17日（火）午前10時～正午

場 所 清瀬市郷土博物館 講座室

出席者 委 員 岩本重雄、小俣洋子、森田善朗、福島努、築瀬正子（敬称略）

事務局 木原経営政策部参事（館長事務取扱）、

東野主任（学芸員）、中野主任（学芸員）、笠原会計年度職員（学芸員）、石井会計年度職員（学芸員）

会議の公開・非公開 原則公開

傍聴者 無

配布資料 資料1 令和5年度事業報告

資料2 令和6年度事業報告・事業予定

資料3・4 令和7年度事業計画（案）

議 事 1 開会

2 館長挨拶

3 議題

（1）令和5年度事業報告について

（2）令和6年度事業執行状況報告及び予定について

（3）令和7年度事業計画（案）について

（4）博物館リニューアルについて

5 その他

1.1 階新造うちおり収蔵施設見学

6 閉会

【議事要旨】

1 開会

本協議会の司会進行役を議題に入るまで東野が務める。

2 経営政策部参事挨拶

木原参事が新任の学芸員の紹介を行った。

3 議題（協議経過等）

（1）令和5年度事業報告について

事務局より上記について資料に基づき報告。

（会 長） 今の報告について質問等はあるか。

「ガンバとカワウソの冒険」の上映参加者は6人だが、卒業式が3月25日なので、それ以降の方が子どもの参加が見込まれるのではないかな。

（会 長） 気象衛星センター展の子どもの来館者数はどうであったか。

（事務局） 子どものみの統計は取っていないが、小学校の学校見学の時期に重なっていたため、まとまった人数は来ている。

（会 長） 学年はどうか。

（事務局） 3年生が参加した。

（2）令和6年度事業執行状況報告及び予定について

事務局より上記について資料に基づき報告。

（会 長） これについて、質問等はあるか。

（委 員） 特別展「清瀬駅100年の物語」について、自身もボランティアとして参加したが、来場者の関心も高く良い企画であった。車両の模型などもあり、子どもも興味津々で見えており、子どもに限らず近隣の町からも大勢の人が見え、清瀬の駅の様子などを語っていた。新任研修の企画も大変良いが、清瀬の自然についても新しい職員に知ってほしい。それについても考えてほしい。

博学連携の第二中学校は先生方が熱心であり、博物館や地元の方を呼び、総合的な学習の時間を進めている。他の中学校に対してはこちらからアピールをして活用強化を図ってはどうか。

(事務局) 新任研修については、市の人材育成係がプログラムを作成しており、毎年4月に郷土学習として歴史を学び、秋口にうどん作り研修を行っている。研修内容については博物館にまかされているので、今後は人材育成係と相談して検討したい。

(委員) 第二中学校で行った博学連携について、10人とあるがどういうことか。出前授業のはずだが、どういう内容か。

(事務局) 第二中学校のこの出前授業では外部から同時に6人程の講師を招いて行っており、それぞれの生徒が聞きたい講師の所に6等分しているためにこのような人数になっている。

(委員) 実質的には60人程いるということか。

(事務局) 実際は第二学年全員が対象となっている。

(委員) 内容は何を行っているのか。

(事務局) 清瀬の鉄道に関する歴史、結核や清瀬の縄文時代に関することなどである。

(委員) 新任研修は市の職員だが、市の子どもたちを教える教職員に向けても配慮をしてもらいたい。

(事務局) 表から漏れているが、教職員の新任研修については、教育部から依頼を受け、新任・転任の教職員を対象としたものを行っている。また、歴史に興味のある教員を対象にマチ歩きなども行っており、学校に裾野を広げて行ければと思っている。

(会長) その際には博物館の年間行事予定を渡して活用を促してほしい。

(事務局) 博物館で作成している年間行事予定があるので可能である。

(会長) 特別展「清瀬駅100年の物語」は報道機関に宣伝をしたのか。

(事務局) プレスリリースは出したが、新聞社は来なかった。地元メディアからの取材はあった。

(会長) それでも1万人以上とすごい人数であった。

その後、伝承スタジオは展示の時のまま囲まれているところがいくつかあるが、何か企画をしているのか。

(事務局) 令和7年度の事業計画で詳しく述べるが、令和7年は夢空間や市制55周年の展示を予定しており、昭和レトロという形で改善しつつ残している。

(3) 令和7年度事業計画(案)について

事務局より上記について資料に基づき報告。

(館 長) 結核の特別展の補足として結核サミットについて。結核の歴史を市として残しながら、その歴史があることをポジティブに見てもらおうと考えている。結核療養の歴史を残している自治体は少なく、現在は茅ヶ崎市くらいである。しかし、療養施設が全国的にあったことは事実であり、サミットでは茅ヶ崎市や清瀬市が協力して結核の歴史を啓発していきたい。そのためにはBCGや予防会の協力も不可欠であり、茅ヶ崎市を含め協力を仰いでいきたい。

展示リニューアルについて、開館し来年で40年を迎えるが、空調老朽化は著しい。入替するためには大規模工事になってしまい、金銭もかなりかかる。大規模な改修になるため業者を入れ、空調に限らず展示全体のリニューアルも含めて考えている。しかし、市内小学校の建替えなどもあるため、実際に行うのは当分先にはなる。博物館も今後、シティプロモーションを扱う施設として、地元の産業や自然をアピールできるよう進めている。

(会 長) 何かあるか。

(委 員) 常設展示について、うちおりはせっかく国の文化財になっているのだからアピールをもっとしてほしい。例えば、リーフレットの作成などして清瀬の財産であることを伝えてほしい。

特別展の夢空間について、なぜ清瀬にこうしたものがあるのかと批判的に述べる人も多いのでそれを払拭する展示にしてほしい。もっと魅力や清瀬との繋がりを伝えるような展示になるといいと思う。

映画会について、友の会共催として昨年度は下清戸で撮影された「ノンちゃん雲に乗る」、今年は是枝監督が旭が丘団地で撮影した「海よりもまだ深く」を上映したが、やはり清瀬に繋がりのあるものは関心が強かった。映画会をやるのなら、直接的でなくても、清瀬と繋がる映画をやった方がよいのではないかと思う。

友の会について、新任研修などにボランティアとして活用させてもらえればと思う。

(館 長) うちおりのリーフレットによるアピールについて、補助金ももらいな

がらと考えている。パンフレットも重要だが、インスタグラムなどSNSの活用も考えている。

夢空間について、清瀬市では現在きよせ棒というお菓子がある。博物館の職員がデザインし、千葉県銚子市に派遣した職員が成果としてつくったお菓子である。非常に売り上げが良く、売り切れも相次いでいる。今までは、市内にあるものをアピールしてきたが、これからは新しいものをコンテンツとして新しく作って、人を呼び込むのも戦略と考えている。きよせ棒をはじめとして、清瀬駅開業 100 周年事業もただ祝うのではなく、市をアピールして市の商店街などを盛り上げる意味で行っている。その中で夢空間もあり、日本に 1 台しかない車両として、話題にもなっており、反対もあるが、活用して清瀬に縁がなかった人を呼び込み、お金を落としてももらいたい。自然や文化財も重要だが、外部から来てもらうためには仕掛けが必要である。

(会 長) 手伝うことがあれば、お声掛けいただきたい。
うちおりの檻樓が出てきて整理しているが、それを展示する企画を博物館開館 40 周年に合わせてできないか。

(館 長) 檻樓は既に常設で展示されており、今後残していくためにも露出展示する訳にはいかない。ミニ展示でも出しており、それを強化していく形にしたい。今後、国指定も考えているため雑には扱えない。これまでと同じように展示を続けたい。
現在はエアタイトケースでしか展示する機会はないが、リニューアル企画の中で、うちおりの画像をVRで取り込み、着ているように見せることは今後技術を使ってやっていくことは可能である。そういった形でのアピールができる。SDGs の考え方を学ぶと同時に、それを着てみる、織ってみるなどの体験といったこともできるようにしたい。檻樓の話になるが、今後国の文化財にするのであれば、皆様に触ってもらえるような状況にはできない。もっと展示をして市の文化財として皆様に見てもらうのか、国の文化財を目指して保存をしていくのか、考える必要がある。

(4) 博物館リニューアルについて
事務局より上記について資料に基づき説明。

(委 員) もし、リクエストあれば、自身はこれまでディレクター職として文化

施設立ち上げに携わっており、勉強会を開いた実績もあるため、技術的側面から協力させてもらえればと思う。

(館 長) 現在の郷土博物館はデザイン重視の建築のため、資料の展示・保管には良くない。博物館は資料を収集し、保存すべき建物と思っており、そこを一番に考えながらアピールしていきたいと考えている。

(委 員) 予算を考えなければいけない。実際に作り上げていくにはかなりの時間が必要であり、これまでもそうであった。今までの博物館の歴史の中で一番にやらなければならないのは空調である。博物館の職員が変われば、違うことを言う。その上で、館長の言うような思いを描いていくべきである。まずは下積みとして空調をしっかりとやらしてもらえるとよい。

(館 長) おっしゃる通り、まずはしっかりと保存をしていける状態にして、私たちだけのものでなく、100年、200年後の市民に繋げていかなければいけないと思う。

(会 長) 長期の計画を立て、まず1年目、2年目と次の人たちにも分かる伝え方をして上手に予算を使ってもらえればと思う。

(委 員) 資料の保存の面で、この建物は本当に良くない。以前もうちおりを受け入れている中でカビが出た。しかし、学芸員がカビの処理をしている最中もすぐ資料を受け入れなければならない状況があった。その積み重ねの中で今があり、館長の言う通り、資料を清瀬の宝として傳承して、活用し、実際に勉強したい人に資料として提供できる形で整えてほしい。

清瀬に住みたい人の理由に自然は大きい。清瀬の自然は里山の自然であり江戸時代から続く文化である。農地・雑木林・河川敷などを紹介する視点を持ってほしい。

(委 員) カワセミなどの鳥の鳴き声などあまりに近すぎて市民は気づかないが、野鳥や昆虫などが清瀬にはたくさんいる。その発展の中心は市民全体で考えれば博物館が当たり前に気づかせる拠点となる。清瀬の中の自然の中の郷土博物館。物を売るための場所ではない。何でもアドバランを上げればいい訳ではない。哲学的なことだが、そこもしっかりと考えてほしい。

(館 長) 博物館も変わってきており、昔のようにただ飾っておけばよいという

状態ではない。多摩六都科学館でも色々な工夫をして自然を実感体験できる場所がある。そこは多摩六都科学館にお願いして、歴史について最新技術を活かして作りながら、実体験してもらえそうなイベントを行っていききたい。

(委 員) 多摩六都科学館の委員をしていたことがあるが、設計段階では子どもたちの体験を重視して考えていた。しかし、大事なはその後の維持であった。豪華電車を持ってきても維持はどうするのか。もしかすればあっという間に朽ち果ててしまうし、維持するためにはかなりのお金がかかる。豪華電車があるから皆が来るとは思えない。郷土博物館でかつて行っていた土器体験の時のように予算のかからない工夫はできるのだがら、アイデアや人材育成に努めてほしい。

(館 長) 子ども向けにも昔の道具体験なども行っており、体感できる教室やイベントを行っていききたい。

5 その他

1.1 階新造うちおり収蔵施設見学

昨年度製作したうちおり収蔵庫を視察した。

6 閉会

(会 長) 以上で本日予定していた議事についてはすべて終了する。これをもって本日の博物館協議会を閉会する。